
わが少年の日々のかがやき（映画館編）

山之内 白洞人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わが少年の日々のかがやき（映画館編）

【Nコード】

N6727S

【作者名】

山之内 白洞人

【あらすじ】

今はもうない少年時代です。

1960年代、

とある山間の人口数万人の田舎町、その町はずれというか、雑木林の開墾地に

そこに私は少年時代をすごしていた。

その

田舎町の中心地には古びた洋画専門館が一軒だけあって営業していた。

邦画館は2軒ありました、なんと邦画館は座席が畳敷きでした。まるで芝居小屋ですね？

事実、地方巡業の芝居もやってましたから。

演歌歌手の歌謡ショーもやってましたね。

テレビもそんなに普及せず

まだ映画館が存在意義のあったころの田舎町だった。

ビデオも無い、ましてテレビだって白黒が普及率50パーセント以下の田舎だった。

カラーテレビなんて田舎の庶民階級の家になんか、ありえない時代、映画館でカラー映画はまるで別世界の夢の世界だった。

私はもちろん洋画ファンだった、

邦画は身近過ぎて現実逃避？のためには駄目だったから、、、。

洋画は見たことも無い白人碧眼金髪のの美女が繰り広げる恋愛はまさに異空間のファンタジーだった。

それはまさにタイムとリップというかスペースリップであった。
田舎の昭和30年代の少年にとっては
アメリカ映画の平凡な家庭ドラマだって、
まさにSF、あるいはファンタジーのようなものだった。

私は毎週お小遣いを握り締めてその洋画館に通ったものだった。
草深い実家をぼる自転車で出て
がたごと田舎道を

4キロも走り、
その地方の中心地の田舎町に到着、
煉瓦造りの洋画専門館の前に立った時

私はまさに、これからおとずれるであろう、
別世界の予感にすでに酔いしれていた、

そして

薄汚い地方映画館の擦り切れた座席も
タバコ臭い室内も何の苦にはならなかったのだ、
ブーとブザーが鳴り、
カーテンが上がる、
するとMGMのライオンが吠える、
さあ始まるぞ。

その無何有の桃源郷のメロドラマに酔いしれたのだった。

さて、

その映画館は仙加紙のチラシを新聞広告に入っていた。

たいていは

2本立てでたとえば8月5日から8月30日までは、

「南太平洋」ジョン・カー、ロツサノ・ブラッチ。ミッチー・ゲイナー

「スーザンの恋」トロイ・ドナヒュー、コニー・ステイブンス
なんて上映作品だった。

わくわくしながら楽しみにそのチラシを毎日眺めては
1週間で首を長くして見に行くのである。

「南太平洋」1958製作south pacificは、太平洋
戦争の南洋の島でのロマンスミュージカル。

フランス・ニューエンの現地娘とアメリカ海兵隊？のジョン・カー
との悲恋、

<http://www.youtube.com/watch?v=CMORAZCog5A&feature=related>

ロツサノ・ブラッチとミッチー・ゲイナーの大人の恋

ああ、今でもほとんどすべて覚えていますよ。

「スーザンの恋」1961製作はsusan slade これも
私にとっては忘れられない青春映画でした。

<http://movie.google.jp/movies/PMVWKPD4649/story.html>
<http://www.youtube.com/watch?v=8Vlg1xNAig0>

過ちを犯したスーザンはトロイ・ドナヒューの真実の愛で救われる
という

甘い切ないメロドラマ、青春映画でしたね。

古びたコンクリートむき出しの映写室も映画が始まると消え去りま

した。

私の心はもうすでに南太平洋に飛んでいたのです。

南太平洋で繰り広げられる歌と踊りに酔いしれました。

「バリハイ」<http://www.youtube.com/watch?v=81NR0mUb7o0&feature=related>

「ハッピートーク」

今でも浮かんできます。

フランス・ニューエンのいじらしい姿も、。

ミッチー・ゲイナーのはつらつとしたダンスも、

トロイ・ドナヒューのあの甘いマスク、

コニー・スチーブンスのいじらしい煩悶も、

さて映画が終われば、。

吾に返って家路を急ぐのです。

汚い、私の実家、わらぶきの貧しい、農家に戻るのです。
ひと時の空間移動、トリップです。

人はパンのみにて生きるにあらず。
そうです。

人には夢が希望が必要です。

夢があるから生きていけるのです。

そして当時、映画はその夢のひとつでもあったわけです。

1960年代まだ何も娯楽も無かった田舎町でそれはおそらく唯一の

ドリームランドであつたかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6727s/>

わが少年の日々のかがやき（映画館編）

2011年10月3日19時43分発行